

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター帝塚山

作成者: 河合 正

作成日: 2023年 7月 26日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 7月 26日

(事業所としての自己評価日: 2023年7月26日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	C	「今を大切に！その人らしく暮らせる様に支援する。」理念唱和できていないが新人スタッフにも理念の説明し共有している。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C	町会・回覧板・北地域包括など		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	C	現状書面での開催になって直接意見を聞く機会が少ないがご意見シートなどサービス向上に生かしている。		
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	連絡回答自業になっているが運営推進会議年間報告書や事故トラブル報告書・介護保険証等寄って報告している。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	1名つなぎ服着用にて毎月身体拘束防止委員会を開催している。スタッフ家族連携し取り組んでいます。		
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	B	きつい声掛け・育たんの原因などみんなで共有し注意しあっている。		
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	年々成年後見人制度を利用される方が増え話す機会が増えた。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	入居の時事前にお渡しし熟読して署名捺印をもらっている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	5類になりウイズコロナになり居室にての面談可能になっています。アンケート形式での意見反映をしています。	B	ほぼ対面通信で定期的、家族に情報を送っている
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	拠点フロア会議にてみんなの意見を参考に決めている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	毎月シフト作成に当たり休休有給希望を聞き反映できる様にしている。反映できない時は本人に伝え次月で検討している。	B	2022年4月の職員から薪給システムの上昇に努めていることがわかりました。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B		B	2022年度第2回の職員に研修を受けている記録は有り却り内容も取り評価しやります。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	コロナも5類になり今後交流会をしていくのが楽しみです。GHの情報共有はしています。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	スタッフ本人のおじいちゃんおばあちゃんのように接することは日々伝えている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	犬の散歩で万代池によくきた！など言われたり馴染みの人の面会など来てもらっている。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター帝塚山

作成者: 河合 正

作成日: 2023年 7月 26日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 7月 26日

(事業所としての自己評価日: 2023年7月26日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅱ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	日々ゆとりをもってケアできればよいのですが日によりバタバタしてしまい意向に寄り添えない時も多い。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれ意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	フロア会議の時など入居者様のケアについて考えているので反映されている。5類になり散歩など体を動かしか体力の回復を促す。		
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	管理日誌介護記録記入し送りノートを独自に作成しスタッフ間の情報共有に生かしている。		
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C	訪問リハビリなどコロナでの閉塞感体力低下回復狙い前向きに体を動かす。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	ボランティアの活用再開(音楽会)		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	B	2週間に1度の往診・週1回の医療連携・週1回の訪問看護・週1回のデンタル		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	病院のソーシャルワーカー・相談員等入院当初から情報共有し担当看護師とも連絡しています。		
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	入居時に重度化の指針等説明捺印をしてもらい話し合いながら着取りまで支援しています。		
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	いつ起こるかかわからないので個人持出ファイル準備し緊急連絡網にてスタッフ間の連携を回れる様に常備している。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	町会と一次避難場所等運営推進など利用し共有している。安否確認の黄色いタオル。防災訓練は年2回春と秋にしています。	B	2022年第4回の善美さんから防災訓練を7月2日行っていました。ことがわかりました。